

平成 28 年 5 月 6 日

**公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク
運営委員会議事録（5 月期）**

【出席者】（敬称略）

濱田、石丸、岡部、沖津、片桐、木村、古池、葉木、森、事務局天寺
澤野委員長、森村会長補佐（推進委員会からの出席）

1. 濱田代表理事 挨拶

4 月 14 日、16 日と熊本・大分にて地震が起こりました。益城町の震度 7 の揺れを「本震」とするか「前震」とするか、諸説ありましたが、気象庁は新しく「続震」という言葉を出しました。言葉通り揺れが続いている状態で、現地では「地震酔い」もあるようです。かなりの身体的・精神的なダメージが出ていると思います。

座間では、報告している通り市との協働事業の中で避難所開設運営検証訓練を実施しているが、今回の地震を踏まえて従来の取り組みを変えていかなければならないと思っています。ともあれ、今回の熊本地震で気づいたこと、感じたことを「記憶」ではなく「記録」し、そこからの教訓を学ばなければなりません。

2. 推進委員会澤野委員長 委員会報告

別添資料「事業報告と今後の予定」のとおり。

3. 公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワークからの報告

- ・ 平成 28 年熊本地震への事務局員派遣報告。
- ・ 社団としての活動として「平成 28 年熊本地震応援缶バッチ」を製作し、義捐金活動を行うことが理事会で決定された。
- ・ SL 全体訓練の代わりとなる第 1 回 SL 全体ミーティングは会場の関係で 6 月 4 日を変更日として運営委員会に提案したが、各委員から各ネットとも 6 月 26 日（日）で予定しているため、6 月 26 日に空いている会場を押さえることとなった。（その後 6/26 TKP カンファレンスルーム新宿を予約した）

4. 各地域の活動報告

<千葉県>

▶ 県ネット・船橋ネット（片桐）

- ・ 5/9 千葉県 SL ネット役員会
- ・ 5/16 千葉県災害ボランティアセンター連絡会会議。
- ・ 5/21 千葉県 SL ネット春季合同訓練 市川市民キャンプ場にて。5/9 役員会にて詳細を詰める。
- ・ 5/11 船橋市市民大学開校式で防災講和を行う。これを機に防災講座を常設し、できれば SL 講座に結びつくよう働きかけたい。

▶ 千葉中央ネット（片桐）

- ・ 5/19・28 千葉市新人職員研修を千葉市中央ネットで受託。

▶ 流山野田ネット（岡部）:

- ・ 6/18 流山春季研修会を計画
- ・ 11/5 流山野田ネット秋季研修会を計画(普通救命講習他、流山野田地域の災害史を学ぶ)

<神奈川>

▶ 横浜市（沖津）別紙資料

- ・ 4/23 横浜ネット平成 28 年度総会を開催
- ・ 5/14 かながわ・よこはま防災ギャザリングに 15 名で参加。
- ・ 6/4 横浜ネット定例会を予定

濱田委員より報告で参加の要請があったという説明があったが、「防災ギャザリング」はその名称の通り「かながわ・よこはま防災ギャザリング」であり公社 S L 災害ボランティアネットワークが主催者になっていることをしっかりと自覚して活動の中心的な場である S L 横浜ネットが活動に積極的に取り組んでほしい。来年度からは、S L 横浜ネットが、実行委員会の中心となってこの行事を主体的に受けて活動の中心的な場としてほしいとの発言があった。

▶ 湘南ネット（葉木）

- ・ 5/29 「災害時の自宅のトイレをどうするか」についてワークショップを行う

▶ 西湘ネット（森）

- ・ 6/12 西湘ネット研修会。温泉地学研究所の講師を呼んで西湘地域の地震と地学について小田原市民文化交流センターにて研修会を実施する。

▶ 神奈川県（森）別紙資料

- ・ 5/14 防災ギャザリングには 40 名の SL が参加登録している。
- ・ 6/4 富士山噴火と神奈川の被害の歴史（講師；温泉地学研究所）をテーマに研修会を実施する。県の協働事業として実施。（防災ギャザリングとの記載あり）

▶ 県央ネット（濱田）

- ・ 5/8 発起人会を予定（厚木・伊勢原にも声掛けをしたが反応なし）。
- ・ 6/12 県央ネット結成会。案内は県央地域 SL 全員へ出す。
- ・ 座間ネット：4/10 マイ発電プロジェクト、4/23 ZSVN 総会。市長が来賓で挨拶。

4/28～30 座間市社協と共同募金活動を行った。

5/20 自治体総合フェアにて座間市長が報告

今年度も大和市社協・清川村社協からの研修受託事業がある。地域からオファーのある「訓練」指導の活動呼称を「防災カフェ」という誰もが気楽に参加できる形で展開することにした。そのための「防災カフェ」ののぼり旗を作った。

- ・ 非常用炊出袋第 3 次発注。6/末 1000 セット。11 月追加 1000 セットを発注している。各ネットの活動費確保のために可能な限り原価の削減にあたっている。

5. 各部会の活動報告

▶ 福祉部会...年間計画のとおり

▶ 情報部会...4/24 防災科学技術研究所へ合同見学会。一般公開から急きょ「平成 28 年熊本地震緊急報告会」となったが、最新の情報に基づく報告会で勉強になった。

▶ 応急部会...年間計画のとおり

【次回の開催日】 6 月 3 日（金）13 時 30 分～

2016年4月の事業報告と今後の予定

(5月6日/災害救援ボランティア推進委員会委員長 澤野次郎)

はじめに

1、防災とボランティアをめぐる情勢

1-1 社会全体(危機管理を中心に)

- ・ 4/11 米国務長官 広島原爆慰霊碑に献花、オバマ広島訪問へ
- ・ 4/15 と 4/23 北朝鮮 ミサイル発射実験 失敗? 成功?

1-2 災害,大規模事故分野

国内 ア 地震(気象庁発表で震度5強以上, M6.5以上、首都圏は震度4以上)

- ・ 4/14 21:26 震源 熊本地方 M6.5、深さ11km、震度7 益城町
- ・ 4/16 01:25 震源 熊本地方 M7.3 深さ12km 震度7 益城町 西原村
死者49人、不明1人(5/5)

イ 火山

- ・ 5/1 桜島 爆発的噴火

ウ 風水害

オ 事故等

- ・ 4/25 福知山線事故から11年

海外 ア 地震(USGC発表、M7.5以上又は報道等で犠牲者多数)

- ・ 4/16 エクアドル地震 震源 太平洋沿岸 M7.8 深さ19km 死者654人(4/23)
- ・ 4/25 ネパール地震から1年

イ 自然災害

- ・ 4/26 チェルノブイリ原発事故から30年

ウ 事故等

1-3 防災行政等の動き

ア 政府・省庁

- ・ 4/1 平田直教授 地震防災対策強化地域判定会 会長就任
- ・ 4/6 平田直教授 地震調査委員会 委員長就任

イ 自治体

九都県市合同防災訓練

幹事会場:さいたま市

東京都:葛飾区、千葉県:茂原市、神奈川県:横須賀市、埼玉県:

ウ 被災地状況

- ・ 避難・転居者数(復興庁発表) 16万5337人 前月比-5504人 4/14現在

1-4 災害ボランティア等の動き

- ・ 熊本大地震関係

生活再建支援事業へ事務局から派遣 「事務局を補うボランティア」

公社)SLネットワークと熊本大地震

1-5 注目すべきメディアと書籍等

- ・ TV [NHK]

- ・ 4/3 巨大災害 第4集 地震列島 見えてきた新たなリスク
西村准教授 熊本地震の危険を事前に予告/プレートブロック分割説
- ・ 4/16 緊急報告 熊本地震 「活断層の脅威」
- ・ 書籍 新刊

2、この間の主な活動と今後の予定

2-1 基盤としての総合的な災害ボランティア活動

A、災害ボランティアリーダー養成事業

ア 全体的事項

- ・ 4/13 推進委員会定期委員会
- ・ 本部講座 9,097 人 公認講座 2,043 人* 計 11,140 人 3/22 現在
講座開催と受講生確保の困難に直面 打開に向けた方策

イ 本部主催の S L 養成事業

- ・ 上級講座の延期、熊本地震対応優先
- ・ 応急手当講習の分離開催の新方針

ウ 大学等受託の S L 養成事業

エ 災害ボランティアリーダー等養成事業

- ・ JBU パワーバンク講座
4 月の上級講座 西コース 神戸 東コース 松島

B、防災 / 減災啓発推進事業

ア 本部等主催の防災啓発推進事業

イ 本部受託の事業

ウ 他主催の事業への協力

- ・ [予定]5/20 自治体総合フェア講演 遠藤座間市長 14 ~、林春男 15 ~

エ 他主催の事業情報

C、S L ネットワーク / 災害ボランティア活動報告

- ・ [報告]4/24 防災科研見学会 変更で熊本地震報告会に

2-2 総合的な防災事業

A、シェイクアウト事業 (防災訓練事業)

ア 全体的な到達点 2015 年 累計約 527 万人、世界で 4400 万人

イ 特徴

気象庁との連携へ 11 月 4 日 津波防災の日関係

B、防災教育推進事業

ア 防災教育チャレンジプラン(内閣府共催)事業

イ 防災教育普及事業

- ・ [宣伝]「防災教育の手引き」頒布中

ウ 学校・団体等防災教育推進事業

- ・ [各地]学校での防災教育支援

C、被災者生活再建支援事業

- ・ [報告]熊本大地震での対応

D、防災研究事業

3、事務局等

3-1 事務局体制の強化

- 4/1 橋本 防災教育普及協会勤務開始
- 4/11 小野 法制学会勤務開始

以上

参考補足資料)

熊本大地震

A：日本列島地殻の変動期説との関連

- ・ 東北地方太平洋沖地震とは別にある動き

南九州の火山活動の活発化(阿蘇山、霧島山、桜島、口永良部島)との関連

B：活断層地震の今までの常識を覆す

- ・ 震度7の激震が連続して発生、新潟中越地震時にも似たような現象
- ・ 距離のある大分県までの「余震」発生
- 「プレートブロック分割モデル」の可能性

C：活断層地震の怖さの再認識

- ・ 阪神・淡路大震災、新潟県中越地震への回帰
- ・ 活断層地震は日本のどこでも起きておかしくない。

D：災害を他人事ととらえることへの反省

くり返される想定外、「熊本でまさか震度7の地震は起きない」

E：避難のあり方の見直し

今後の対策 震度6以上の地震が発生した場合は

活断層付近の耐震性が低い建物居住者は建物が倒壊しなくても
一定期間、事前避難することが必要。

F：避難所のあり方の見直し

車上避難の想定、駐車場の確保

テント村の避難想定、テントと広場の確保

G：災害ボランティアのあり方

地震災害時における集中センター方式の限界

頼りになった身近な地域のボランティア

外部からの専門的、経験ある人材の派遣の必要性

H：復旧・復興のしくみの問題

やはり被災する前からのしくみづくりが重要

以上

公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク
運営委員会 議事

【理事会報告事項】

1. 平成 28 年熊本地震

熊本県庁職員派遣報告

第 1 次：4 月 28 日～5 月 1 日（天寺）

第 2 次：5 月 1 日～5 月 3 日（高須）

第 3 次：・・・

（支援内容）

「被災者生活再建支援システム」熊本県導入に伴う、支援活動。

「平成 28 年熊本地震 応援缶バッチ」で義援金募集を行う。

義援金の募集を会員向けに実施したいが、振込口座のお知らせだけでは募金が集まりにくいことを考え、ZSVN で製作するくまもん缶バッチの購入代金を義援金として熊本県へ送金。

缶バッチサイズ：40mm

価格：500 円から

（30～50 個を最低ロットとし、それを個人あるいは地域ネットで購入し、配付する方法）

振込先：三菱東京 UFJ 銀行 口座

期間：第 1 次＝夏まで 第 2 次＝12/末 第 3 次＝2017 年 4 月まで

5/21、6/4 に参加者に募集してみる。

案内：6 月のニュースレター等で案内する。缶バッチ図案は HP へ掲載。

第 1 回 SL 全体ミーティング in 有明

日時：6 月 4 日（土）10 時 00 分～16 時 00 分

会場：東京臨海広域防災公園—そなエリア—レクチャールーム

6 月 26 日（日）TKP 新宿カンファレンスセンター で予約済み

内容：

SL 活動のコンセプトを参加者で考える。

- 誰のための活動なのか
- 何のための活動なのか
- どのような（手段・方法）の活動なのか
- 活動の限界はどこか？...プロは消防・自衛隊。所詮は「ボランティア」という精神

2. 次回運営委員会

2016 年 6 月 3 日（金）13 時 30 分～